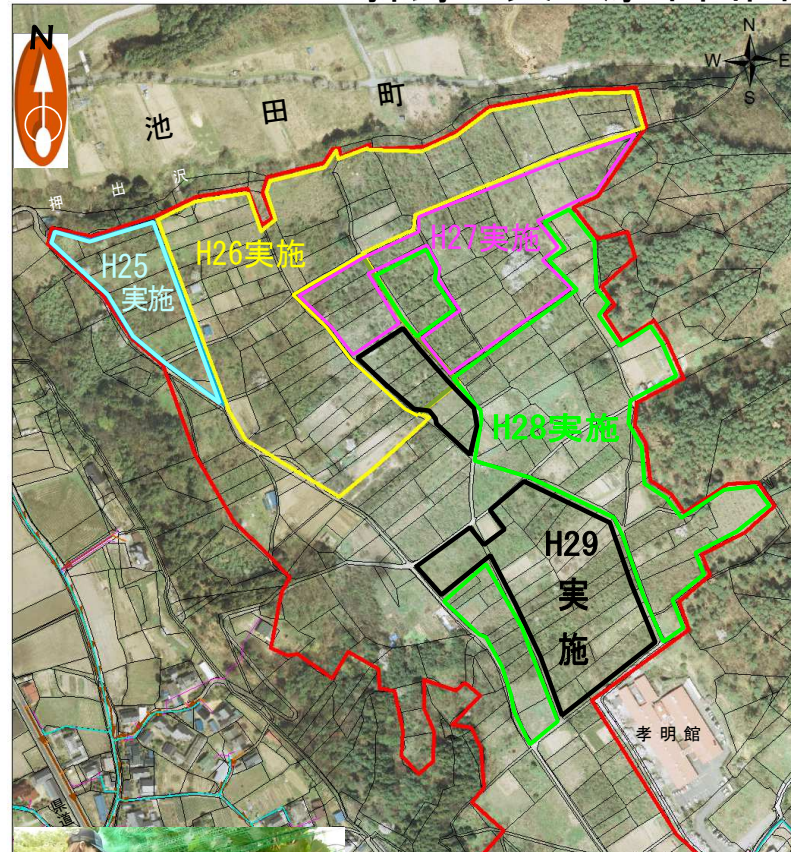


# 地域の夢を天王原農地再生に託して

平成30年11月 明科地域の農業を守る会

てんのうばら  
安曇野市明科上押野

## 上押野 天王原平面図



### 1 荒廃農地対策は大きな課題

これからの日本の農業にとって「荒廃農地対策」は大きな課題です。安曇野市の林野化を含む荒廃農地は390haに及び、その61% 240haが当明科地域に集中する深刻な状況です。

最初に取り組む天王原は

- ・北アルプスを間近に望む標高600メートル前後の西向き緩斜面
- ・地域を支えた桑畑15~20haも四半世紀が経過して林野化が進行
- ・信州ワインバレー構想の日本アルプスワインバレーエリアに位置

### 2 立ち上がった地域農業委員

#### 『明科地域の農業を守る会』を設立

安曇野市農業委員会の明科地域委員は、数年の検討期間を経て、平成25年度に荒廃農地再生事業への、具体的な取り組みを開始しました。事業を推進するための組織は『明科地域の農業を守る会』と命名し、明科地域の農業委員会委員を中心に、認定農業者の代表、農家組合代表、行政（県・市）及びJA関係者等で構成され、事務局は市農業委員会事務局が事業部局と連携をとりながらあたります。安曇野市農業委員会の全面的な支援を得る中で即、平成25年度から荒廃農地再生事業の実施に取り組むこととしました。

### 3 モデル事業と銘うってまずはスタート

平成25年度 65アール



かつては優良な桑畑も今は…

最初の65aの再生事業はモデル事業と銘うって「守る会」が事業主体となり、国交付金の受け入れから事業実施において、市農業委員会及び農業再生協議会並びに関係部署の支援体制を整えてスタートしました。地権者を始め、地元関係者の理解があって早期の事業実施が実現しました。

しかし

予想を遥かに超えた 困難な作業 それはまさに開墾!



重機でのなぎ倒し作業を先行



レキドザーが活躍



倒した木の処理は延々と



ボランティアによる仕上げ作業

12月18日の開始から約3か月でモデル事業65アールの再生作業が完了

◎倒した立木の後処理は小型重機とチェーンソーによる根気の作業◎株や根の掘り起こしは正に開墾で全体の工程に大きく影響◎初めて体験する困難な作業は、今後の再生事業への貴重なノウハウの蓄積に!

### 4 良好な耕作を継続してこそ

大切な  
耕作者の存在

- 耕作者：池上文康氏（安曇野市明科在住） 平成25・27年度選定  
鈴木浩哉氏（安曇野市明科在住） 平成27年度選定  
齋藤翔氏（安曇野市三郷在住） 平成28年度選定

3名のうち2名は当面、既存のワイナリー向けぶどうを生産・出荷しています。他の1名は、平成30年11月にワイナリー免許を取得しました。また、平成30年から天王原ぶどう生産組合を組織して利水設備や道路草刈り等の共同作業をスタートしました。天王原地区の耕作者同士で情報交換しながら、また再生作業の現場では助け合いながら栽培をしています。

### 5 本格再生事業 順調に推進 10haに!

H26年度 2.7ヘクタール	H27年度 2ヘクタール
H28年度 2.4ヘクタール	H29年度 1.9ヘクタール

平成26年度から29年度までは毎年2ha前後の再生を実施しました。国の交付金の事業実施主体として、28年度までは「守る会」が、29年度からは個別耕作者となりました。モデル事業で培った経験とノウハウが活かされ、より綿密な作業計画により円滑な工事の進捗、特に機械作業とボランティアのより効率的な組立もできました。市内全域の農業委員を始め、南安曇農業高校生や協力者等多くのボランティアに参加された皆さんの力は、大きな支えとなっています。再生農地には、平成27年に5,100本、平成28年に300本、更に平成29年には2,625本と計8千本余りが定植され、順調に生育しています。



H29年2月25日 約70名のボランティアが参加

### 6 実現への大きな一歩

8千本余に 今季収穫 20ton

平成29年度には国の資材支給を得て、「守る会」として山側に約1.1kmの獣害防護柵を設置する事ができました。鳥獣害に遭いながらも定植してから3年目で約13t、4年目で約20tの収穫があり、主として地元ワイナリーに出荷しました。将来的には100t規模の収穫が期待出来ますので、荒廃農地再生事業の成果としても大きく、天王原ワイン用ぶどうの産地形成に向けての大きな一歩を、踏み出すことができたと言えます。



メルロー



シャルドネ

### 7 夢の実現 今後に向けて

平成30年3月に北アルプス・安曇野ワインバレー特区が認可され、同年11月には、特区にもとづく新しいワイナリーが再生農地の近隣に設立されました。県の日本アルプスワインバレー構想に沿って新しいワイン用ぶどうの産地形成・6次産業化の夢が着実に進んでいます。地域の皆さんの支援を力に、この農地再生事業を地域活性化に発展させるよう更に推進していきたいと考えています。今後の課題は、天王原地区の道路や水路整備、地域の皆さんが心配される出水・防災対策があります。また、農地中間管理機構を活用した安定した農地の賃貸借の推進も課題です。地域の皆さんや行政関係者の方々とともに課題解決に向けて協力して進んでいきたいと考えています。